

問1 世界遺産にも登録されている、日本最大規模の大仙古墳が位置する都市はどこ？

1. 奈良県天理市                      2. 大阪府堺市                      3. 岡山県岡山市                      4. 群馬県太田市

問2 中国から軍事的な指揮権を認められ、国内での権力強化を図った王たちの総称を何という？

1. 推古天皇                      2. 倭の五王                      3. 天智天皇                      4. 聖徳太子

問3 熊本県和水町にあり、稲荷山古墳と同じ大王の名が刻まれた鉄刀が出土したことで知られる古墳は何という？

1. 江田船山古墳                      2. 高松塚古墳                      3. 石舞台古墳                      4. 稲荷山古墳

問4 5世紀ごろ、日本に漢字や経典を伝えたとされる、百済から来た人物は誰？

1. 恵美押勝                      2. 阿知使主                      3. 王仁                      4. 弓月君

問5 稲荷山古墳などの出土品に名前が刻まれ、その支配が九州から関東まで及んでいたとされる大王は誰？

1. ワカタケル大王                      2. 欽明天皇                      3. 継体天皇                      4. 推古天皇

問6 中国の歴史書に記されている、5世紀頃に南朝へ朝貢を行ったヤマト王権の5人の王をまとめて何という？

1. 倭の五王                      2. 小野妹子                      3. 聖徳太子                      4. 三種の神器

問7 4世紀から7世紀にかけて近畿地方を中心に勢力を広げた勢力を何という？

1. ヤマト王権                      2. 平安政権                      3. 奈良政権                      4. 飛鳥政権

問8 古墳時代に輸入された鉄を利用して作られ、農業生産力を向上させた道具を何という？

1. 鉄製農具                      2. 石製農具                      3. 青銅製農具                      4. 木製農具

問9 6世紀、日本への仏教伝来に際して、その導入に賛成した有力な豪族は誰？

1. 藤原氏                      2. 蘇我氏                      3. 中臣氏                      4. 物部氏

問10 大阪府に位置する、日本最大の前方後円墳として世界文化遺産にも登録されている古墳を何という？

1. 江田船山古墳                      2. 稲荷山古墳                      3. 高松塚古墳                      4. 大仙古墳

問11 ヤマト王権の支配力が関東地方まで及んでいたことを示す、埼玉県から出土した重要な鉄剣が見つかった古墳を何という？

1. 稲荷山古墳                      2. 高松塚古墳                      3. 江田船山古墳                      4. 石舞台古墳

問12 古墳の内部に死者の権威を示すために納められた鏡などの品々を何という？

1. 封土                      2. 副葬品                      3. 木棺                      4. 壁画

問13 埼玉県行田市の埼玉古墳群のひとつで、金象嵌の銘文が刻まれた鉄剣が出土したことで知られる古墳は何という？

1. 江田船山古墳                      2. 稲荷山古墳                      3. 石舞台古墳                      4. 高松塚古墳

問14 ヤマト王権の支配力が拡大する中、全国に広まった巨大な墳墓の形を何という？

1. 円墳                      2. 前方後円墳                      3. 前方後方墳                      4. 方墳

問15 3世紀後半からヤマト王権において、各地の豪族を従えていた最高権力者を何という？

1. 将軍                      2. 太政大臣                      3. 天皇                      4. 大王

問16 熊本県から出土した鉄刀の銘文に漢字が刻まれており、当時の日本で漢字が使われていたことを示す古墳を何という？

1. 大仙陵古墳                      2. 高松塚古墳                      3. 江田船山古墳                      4. 稲荷山古墳

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 2</b> 大阪府堺市	大阪府堺市にある大仙古墳は、日本最大級の前方後円墳として知られており、周囲の古墳と共に「百舌鳥・古市古墳群」を構成しています。この地域は当時のヤマト王権の中心地に近い場所であり、強大な権力を持った支配者が存在したことを物語っています。
問2	<b>答え 2</b> 倭の五王	宋書という中国の歴史書に登場する「讚・珍・済・興・武」の5人の王を指します。彼らは南朝の皇帝から「倭王」として認められ、朝鮮半島での軍事的な指揮権などを追認されました。この外交的承認を利用することで、彼らは国内の豪族に対して優位に立ち、自らの権威をより確固たるものにしました。
問3	<b>答え 1</b> 江田船山古墳	江田船山古墳は、熊本県に位置する5世紀から6世紀頃の古墳です。ここから出土した鉄刀には、稲荷山古墳のものと同じワカタケル大王の名が記されており、ヤマト王権の影響力が九州の地まで深く及んでいたことを示しています。また、これらの出土品は、当時の武器や装飾品の様式を知るためにも重要です。
問4	<b>答え 3</b> 王仁	王仁は伝説的な人物として『古事記』や『日本書紀』に記されており、百済の王から日本へ派遣されたと考えられています。彼は漢字を用いて記録する技術や、中国の古典を日本に伝えました。彼によってもたらされた知識は、当時の日本の知識層にとっての教科書となり、日本の文字文化の発展に決定的な影響を与えました。
問5	<b>答え 1</b> ワカタケル大王	「ワカタケル大王」の名は、埼玉県と熊本県の古墳から出土した鉄剣・鉄刀に金象嵌で記されています。これは、この大王の権力が東国から九州まで、列島の広範囲に及んでいたことを如実に示しています。一般的には、記紀に見える雄略天皇と同一人物だと考えられています。
問6	<b>答え 1</b> 倭の五王	記録に残る王は、讚・珍・済・興・武の5人です。特に最後の「武」は、国内から出土する鉄剣の銘文に見られるワカタケル大王と同一人物であると考えられています。彼らは中国皇帝に軍事的な支持を求める使節を送り、国内の権威付けを行いました。
問7	<b>答え 1</b> ヤマト王権	ヤマト王権は、近畿地方を中心に各地の豪族と連合して国内を統治する政治組織です。有力な豪族を従え、朝鮮半島との外交や、大陸からの進んだ技術を取り入れることで富を蓄えました。大王を中心とした豪族の連合体という性格が強く、次第に中央集権的な国家へと変化していきます。
問8	<b>答え 1</b> 鉄製農具	鉄製の鋤（すき）や鍬（くわ）などの鉄製農具が普及したことで、それまで開墾できなかった硬い土地の耕作が可能になりました。これにより稲作の効率が飛躍的に高まり、収穫量が増加しました。さらに鉄は武器の材料としても使われ、ヤマト王権の軍事力強化にも大きく貢献しました。
問9	<b>答え 2</b> 蘇我氏	蘇我氏は、百済から伝わった仏教の持つ高度な知識や技術にいち早く目をつけました。彼らは仏教を支持することで、他の豪族との競争において優位に立つと考えました。一方、物部氏などの反対勢力は、伝統的な神々を軽視するものとして武力で対立しました。最終的に蘇我氏が勝利し、仏教が公認されることとなりました。
問10	<b>答え 4</b> 大仙古墳	大仙古墳（伝仁徳天皇陵）は、墳丘の長さが約486メートルにも及び日本最大の前方後円墳です。三重の濠（ほり）に囲まれた壮大な姿をしており、ユネスコの世界文化遺産にも登録されています。当時の王権が、いかに巨大な労働力や土木技術を動員する力を持っていたかを象徴する遺跡です。
問11	<b>答え 1</b> 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌で文字が刻まれていました。この文字には「ワカタケル大王」という当時のヤマト王権の王の名前と、その王に仕えた人物の系譜が記されています。これによって、関東地方の豪族がヤマト王権と密接な関係を持っていたことが証明されました。
問12	<b>答え 2</b> 副葬品	銅鏡、勾玉（まがたま）、鉄製の武器や農具などが代表的な副葬品です。これらは当時、非常に貴重な宝物や技術の象徴でした。また、墳丘の上には土製の埴輪が並べられ、埋葬された人物の威厳を周囲に示しました。
問13	<b>答え 2</b> 稲荷山古墳	稲荷山古墳は、埼玉県行田市の埼玉古墳群にある前方後円墳です。この古墳から出土した鉄剣には、115文字からなる金象嵌の銘文が刻まれていました。この銘文により、当時の大王の名が判明し、ヤマト王権の支配が遠方まで及んでいたことが証明されました。
問14	<b>答え 2</b> 前方後円墳	前方後円墳は、四角い「前方部」と円形の「後円部」を組み合わせた特徴的な形状で、規模の大きさはそのまま権力の大きさを表していました。近畿地方から始まり、王権の広がりとともに全国へと普及していきました。
問15	<b>答え 4</b> 大王	ヤマト王権の長は「大王（おおきみ）」と呼ばれ、各地の豪族を服属させたり、有力豪族を中央の官職につけたりして国を治めました。後に天皇と称するようになる前の、強大な権力を持つ王の呼称です。
問16	<b>答え 3</b> 江田船山古墳	江田船山古墳からは、金銀象嵌（ぞうがん）が施された鉄刀が出土しました。その刀には、所有者や当時のヤマト政権の王に関係すると思われる漢字が刻まれていました。これは、5世紀から6世紀にかけて、日本の地方豪族が漢字を読み書きし、ヤマト政権との間で政治的なやり取りを行っていたことを裏付ける重要な史料です。